

# レッドオレンジコンプレックス

RED ORANGE COMPLEX®

CLINICALLY PROVEN TO COUNTERACT OXIDATIVE STRESS

## 女性向けの新美容素材として 世界で注目されるレッドオレンジ抽出物。

レッドオレンジはイタリアのシチリア島地方特産の特殊なオレンジで果肉は特徴的な赤色、バイオレットレッド色を呈します。

特徴的な赤い色は、温暖な気候の中で合成される糖分と日中と夜間の大きな気温の差によってアントシアニンの合成が刺激されるため、レッドオレンジには、健康のために有益な要素が含まれています。

レッドオレンジコンプレックスHはこのシチリア特産のレッドオレンジ三種類（モロ、サンギネロ、タロッコ種）から抽出された粉末状のエキス粉末です。

レッドオレンジ・コンプレックスHは含有成分であるアントシアニン、フラバノン、ヒドロキシケイ皮酸のフェノール類とアスコルビン酸の相乗効果により酸化ストレスを抑制し、フリーラジカル生成抑制・除去作用を含む強力な抗酸化作用を持ち、細胞のDNA損傷を抑制、皮膚を紫外線から保護し、LDL酸化抑制など多様な効果が数々の試験により確認されています。

- スキンケアに
- 紫外線保護に
- アンチエイジングに
- スポーツに

成分	含有量(%)
アントシアニン	2.0以上
フラバノン	8.5以上
ヒドロキシケイ皮酸	1.8以上
アスコルビン酸	5.0以上

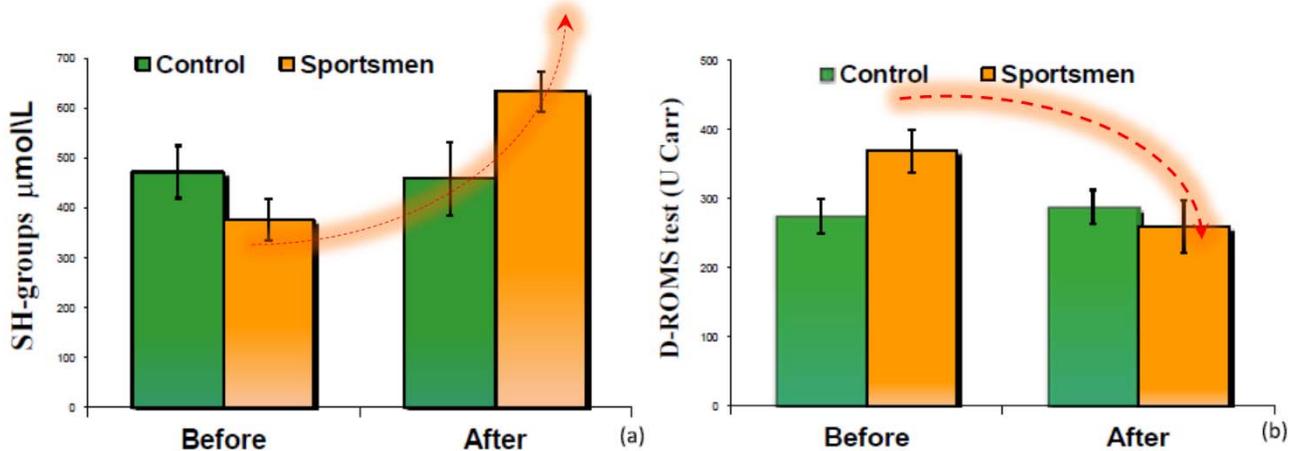
# レッドオレンジコンプレックス

## スキン・アンチエイジング、紫外線保護、美白...

### 地中海からレッドオレンジ・フルーツスキンケア

#### レッドオレンジコンプレックスの強力な抗酸化力

レッドオレンジコンプレックスの効果は多くの科学文献で証明されています。(1-4)  
レッドオレンジコンプレックスの経口摂取により、体内の酸化ストレスに対抗する強力な抗酸化作用が  
ヒト臨床試験(5-7)により確認されています。



抗酸化要素として重要な血漿中チオール基量  
(グルタチオンとその誘導体)の増加。

血漿中の脂質過酸化の低下  
(D-ROMS値)

スポーツ選手18人と健康なボランティア17人(コントロール)にレッドオレンジコンプレックス50mg x 2/日を  
2ヶ月間投与した結果。レッドオレンジコンプレックスの抗酸化作用が明らかに現れています。(5)

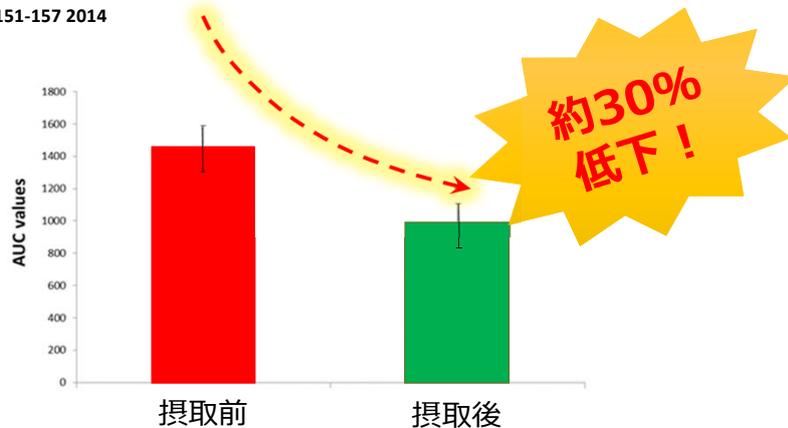
#### レッドオレンジコンプレックスの優れた紫外線保護作用

レッドオレンジ抽出物の紫外線に誘発される皮膚損傷(光老化と日光黒子)における保護効果。

Protective effect of red orange extract supplementation against UV-induced skin damages: photo-aging and solar  
lentiginos. Carmelo Puglia, et Al. Journal of Cosmetic Dermatology, 13, 151-157 2014

ケラチノサイト(表皮、角化細胞)を使用したIn  
vitro試験からレッドオレンジコンプレックスが紫外線  
の影響で生じる皮膚の損傷に対し予防・対抗作  
用があることが確認されています。(8,9)  
本試験では26~47歳の女性20人を対象とした  
臨床試験から、レッドオレンジコンプレックスを  
100mg/日、15日間経口投与、試験期間中紫  
外線照射を行い、試験開始時と15日後の皮膚  
紅斑を比較したところ約**30%の低下**が確認され  
ました。

これらの試験からレッドオレンジコンプレックスの経口  
摂取は紫外線の影響で生じる肌の損傷を低減す  
ることが確認され、レッドオレンジコンプレックスは紫  
外線からの肌の保護に有効であることが確認され  
ました。



ROC摂取前と摂取後のAUC値  
紅斑生成の強度

REFERENCES

1. Russo A, et al., J Food Sci 67: 2814-2818 (2002).
2. Sorrenti V, et al., J Food Sci 69: 480-484 (2004).
3. Cornell U, et al., Progress in Nutrition 1: 21-27 (2000).
4. Frasca G, et al., Nat Prod Res 24(15):1469-1480 (2010).
5. Bonina F, et al., Nutr Res 25: 917-924 (2005).
6. Bonina F, et al., Nat Prod Res 22(17):1544-51 (2008).
7. Bonina F, et al., Diabetes Nutr Metab 15: 14-19 (2002).
8. Cimino F, et al., Biofactors 30: 129-138 (2007).
9. Cardile V, et al., Phytother Res 24:414-418 (2010).
10. Bionap report.